



## 7/20 南阿蘇を忘れません ALTホール・ニコラス・ジー先生退任

外国語指導助手 (ALT) として本村の中学校で指導されたホール・ニコラス・ジー先生 (ニック先生) が、1年間の任期を終え退任のあいさつで久木野庁舎を訪れました。

ニック先生は、平成27年8月に八代市から来村。南阿蘇中学校の開校式では、吹奏楽部の生徒たちと一緒に校歌を演奏されました。退任後は、東京でコンピュータソフトのエンジニアとして活躍されます。

ニック先生は、「とても楽しい1年間であったという間に過ぎました。東京で仕事をするようになりますが、南阿蘇のことを忘れずに頑張りたい」とあいさつされました。



ホール・ニコラス・ジー先生 (右) と長野村長

## 7/7 たくさんの方々の協力で表彰状 道の駅「あそ望の郷くぎの」

九州・沖縄「道の駅」連絡会が福岡県宗像市で開催され、道の駅「あそ望の郷くぎの」(指定管理者(株)くぎの) に表彰状が贈られました。

これは、熊本地震発生直後から多くの避難者を受け入れ、4月16日～22日に、そばやおにぎり(約1万食)の炊き出しや、農家から差し入れられたアスパラやイチゴの提供、自衛隊の物資輸送の前線基地として活用するなど当施設が災害時における防災基地としての役割を十分に果たしたことが認められたもの。

藤原健志 代表取締役社長は、「スタッフや消防団、観光協会が24時間体制で取り組み、モンベルからも協力を得てできたもの」と語られました。



表彰状を手にする藤原代表取締役社長

## 7/26 採れたてブルーベリーおいしい！ ちょうよう保育園ブルーベリー狩り体験

熊本地震の震災後、元気がない子どもたちを元気づけようと、今村輝宏さん(川後田)がちょうよう保育園の園児たちをブルーベリー園「輝」(きらり)に招待されました。

この日は、年長児24人が参加。園には、ティフブルーなど6品種の約2,600本のブルーベリーが栽培されており、今村さんから1人ずつパックを受け取ると、園児たちは背丈ほどの位置に実を付けたブルーベリーを上手に摘み取り、おいしそうにほおばり、お土産としても持ち帰りました。

今村さんは、園児たちを元気にしたいという思いから「今後も毎年招待したい」と話されました。



ブルーベリー狩りを楽しむ園児たち

## 7/24 たくさんの来場者で大賑わい 第4回白川水源駅祭

南阿蘇鉄道「南阿蘇白川水源駅」駅前広場で、「第4回白川水源駅祭」(白川活性実行委員会主催)が開催されました。

小学生以下の子どもを対象とした「ヤマメのつかみ取り」は2回行われ、たくさん子どもたちが参加。ヤマメを捕まえようと追っていました。

当日は、「白川吉見神社大祭」の日でもあり、会場内に神輿の御神行も行われました。ステージでは、カラオケ発表会や、バルーンアートショー、豪華景品が当たる「お楽しみ抽選会」などが行われ、祭りの終わりには「花火大会」もあり、会場は多くの来場者で大賑わいを見せました。



泳ぎ回るヤマメを追いかける子どもたち

## 7/31 復興への一歩 南阿蘇鉄道部分運転再開

熊本地震の被害を受け、4月15日から107日間運休していた南阿蘇鉄道が運行を再開し、その出発式が、同鉄道高森駅で開催され、復活を待ち望んだ多くの人が詰め掛けました。1日駅長を村内の小学生8人が務め、午前9時30分発のレースバスの出発式では、中松小学校の源楓翔君(6年生)と両併小学校の田上愛桜さん(2年生)が、「出発進行！」と発車の合図をしました。

今回の運転再開では、立野駅～高森駅間17.7キロのうち、比較的被害が少なかった中松駅～高森駅間の7.11キロを1日4往復(レールバス1往復、トロッコ列車3往復)運行します。



(左) 出発の合図をする田上愛桜さん(左)と源楓翔君(右) 中松駅のホームに到着した始発のレースバス

## 7/30 震災乗り越え「金賞」 南阿蘇中学校吹奏楽部

「第60回熊本県吹奏楽コンクール」が荒尾総合文化センターで開催され、中学校Bパート(34校出場)の部で、南阿蘇中学校吹奏楽部(坂梨正文校長)が金賞を受賞しました。

Bパートは、演奏者15人以内、演奏時間10分以内で課題曲と自由曲の2曲を演奏。幾種もの楽器が奏でる迫力ある演奏が会場に響きました。

部長の西元響さん(3年生)は、「地震の影響で練習期間も短く不安でしたが、みんなの気持ちを一つに感謝の気持ちを込めて演奏できたことが金賞という結果につながったと思います」と喜びを話してくれました。



くまもとマーチングフェスティバルの練習に励む吹奏楽部の皆さん

## 7/31 大切なふるさとの復興を誓う 平成28年熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式

4月16日に発生した熊本地震(本震)から100日余りを迎え、「平成28年熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式」がJA阿蘇葬祭 南阿蘇斎場で11人の犠牲者遺族や消防団、村関係者など約200人が参列して行われました。

式では長野敏也村長が、「私たちはこの震災を後世への教訓として決して忘れてはなりません。今後は、持てる力の全てを注ぎ、被災者に寄り添いながら一日も早い本格的な復興や生活再建を成し遂げ、この教訓を踏まえ「災害に強い村づくり」を進めていくことを固く誓います」と述べました。

お別れの言葉では遺族代表で、母の高田一美さんを亡くした高田尚子さん(立野)が、「今菊陽町に住んでいますが、一日たりとも立野のことを忘れたことはありません。家族と過ごし、母と過ごし、友人と過ごした大切な故郷。これからその大切な南阿蘇村のために復興に向けてできることから始めようと思う」と復興に向け誓いの言葉を語られました。

式の終わりには参列者一人一人から献花が手向けられました。



村犠牲者追悼式の祭壇



お別れの言葉を述べる高田尚子さん



参列者全員による献花が行われました





## 8/3~4 熊本のために何かできないか 大阪市立梅香中学校 来村

大阪市立梅香中学校の3年生(169人)が修学旅行先として6月11日から熊本を訪れ、本村の家庭(16軒)でファームステイを計画していましたが、一連の熊本地震を受けて旅行先が変更となりました。

そこで、梅香中学校の生徒さんが「熊本のために何かできないか」との思いから、大阪の広範囲で募金活動を行い、生徒代表の6人と先生方4人が、支援金の贈呈と慰問のため本村を訪れました。

この日は、長野敏也村長をはじめ、工藤壯一さん(第四駐在)、中村和章さん(一関一)夫妻がファームステイ先を代表として生徒らを出迎え、両世帯が当日のファームステイを受入れました。

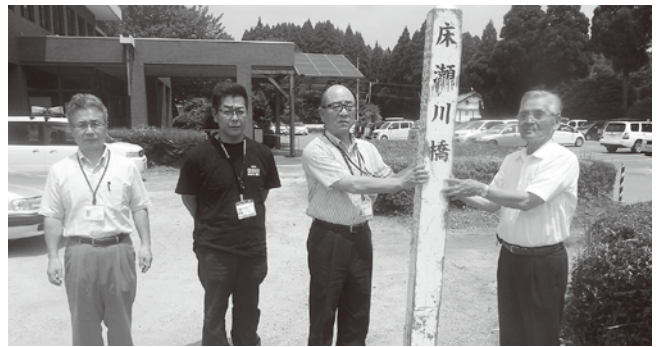
生徒は「今回熊本に来られなかった友だちにも、熊本のパワーを持って帰りたい」と話していました。



梅香中学校の生徒さんと関係者の皆さん

## 8/1 荒尾市から南阿蘇へ帰還 村指定有形文化財標柱(床瀬川橋)

村指定有形文化財建造物の「床瀬川橋」(黒川地区)の説明標柱が、熊本地震で崩落、その後の大雨で白川を流れ有明海に漂流し、100km以上離れた荒尾市の蔵満海岸に漂着しているのを荒尾市民が発見。代表で、荒尾市環境保全課の渡辺武課長と、濱村真光係長が長陽庁舎を訪れ、村教育委員会に返還されました。藤岡教育長が、「発見していただいた荒尾市民の方や、届けていただいた荒尾市の職員の方に深く感謝し、床瀬川橋が復旧した際は、今回の出来事を記し設置したい。このご縁を大切に、今後交流などができれば」とお礼の言葉を述べました。



荒尾市の渡辺課長(右から2人目)と濱村係長(右から3人目)から届けられた標柱

## 8/10 盛り上がった夏祭り あそ望の郷くぎの夏祭り

「あそ望の郷くぎの夏祭り」が、道の駅あそ望の郷くぎの駐車場で開催され、多くの来場者で賑わいました。

ステージイベントでは、「浴衣コンテスト」や、村出身で、熊本弁で歌手の「タイチジャングル」さんのライブなどが行われ、菊池市の非公認キャラクター「きくちくん」が飛び入りで参加。ステージ前には、たくさんの子どもたちが集まっていました。今年は、「あか牛バーガー大食い大会」もあり、子どもと大人に分かれて7人ずつの2組が挑戦しました。参加者は、大きいバーガーに悪戦苦闘しながらも一生懸命ほおばっていました。



たくさんの子どもが見入った「あか牛バーガー大食い大会」

## 8/6 おもちゃがたくさん！ ちょうよう保育園「おもちゃ図書館」

NPO法人おもちゃの図書館全国連絡会主催の「おもちゃ図書館」が、ちょうよう保育園で開催されました。これは、福岡県や熊本県内のボランティアの皆さんが、不安を抱きながら生活をする親子にリラックスし、楽しく過ごせる場を作ろうと企画したものです。

当日は、村内の園児や小学生、子育て中の親子が多く参加。「おもちゃであそぼうコーナー」、「きせかえへんしんコーナー」などがあり、子どもたちは、楽しそうに遊んだり、ドレスなどの衣装に着替えたりしていました。

保護者などのために設けられた「おしゃべりCafé」では、お茶を飲みながらリラックスされるなど、イベントは大盛況となりました。



ドレスに着替える子どもたち